

## 令和7年度第2回東松山市地域自立支援協議会全体会次第

令和8年3月24日（火）午後2時  
東松山市総合会館多目的ホール B

### 1 開会

### 2 あいさつ

### 3 議事

#### （1）各プロジェクト・連絡会議からの報告

- ①障害者進路支援連絡会議
- ②障害のあるこどもの育ちと学びを支える連絡会議
- ③医療・福祉連携プロジェクト
- ④地域生活支援拠点等連絡会議

#### （2）具体的事例を通じて地域課題を考える

～各取組に関連する事例の共有～

#### （3）来年度スケジュール（案）について

#### （4）その他

### 4 その他

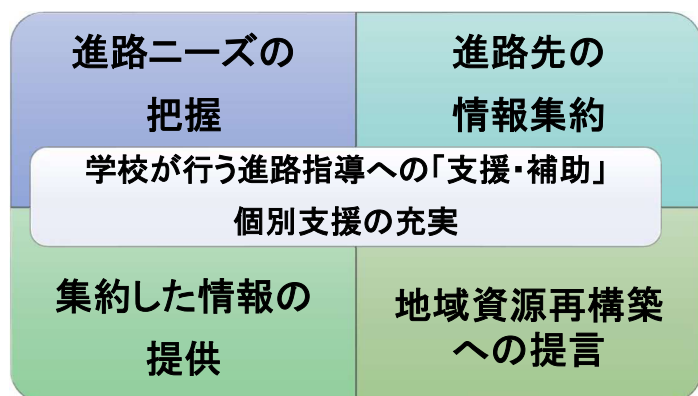


<b>会議名</b>	
<b>プロジェクト 設立の経緯</b>	<p>期間が決まっている学校生活の中、障害のある生徒の高校卒業後における進路選択の一助になるための情報提供や、学校が行う進路指導の補完を行うことを目的に、平成19年8月から「特別支援学校等の生徒の進路選択を考えるプロジェクト」としてスタート。その後平成20年4月から「障害者進路支援連絡会議」として設置される。</p>
<b>今年度の 目標、成果 及び 次年度の課題</b>	<b>今年度目標</b>
	<p>1.『キャリアデザインフォーラム』の開催。 2.『中学生による職業体験』の開催。 3. 両企画を通し、参加者からの意見や感想をとりまとめ、今後のフォーラムや職業体験の在り方について、また、より実効性のある情報提供の在り方について検討する。</p>
	<b>成果</b>
	<p><b>1.定例会議開催</b> 令和7年4月9日(水)、6月11日(水)、7月30日(水)、10月8日(水)、12月10日(水)、令和8年2月18日(水)</p> <p><b>2.キャリアデザインフォーラムについて</b> ・開催日：令和7年7月3日(水) 10時00分～12時00分 ・内容：第1部 講演「進路選択の考え方」 第2部 「市内の就労支援や相談支援等機関による 事業内容及び事例説明」 第3部 保護者同士の情報交換会 ・参加者：16名</p> <p><b>3.中学生による職業体験事業について</b> ・開催日：令和7年8月27日(火) 9時00分～13時00分 ・協力企業 ① 株式会社丸山製作所(軟水器部品の組み立て) ② シャローム病院(事務) ③ 株式会社彩松 ケアサービス彩松 ひだまりの郷(清掃) ④ 株式会社ヤオコー東松山新宿町店(品出し、陳列) ⑤ エネックス株式会社(チラシ、契約書などの準備) ・参加者：7名</p> <p style="text-align: center;">※キャリアデザインフォーラム、職業体験について 詳細は別紙資料参照</p>
	<b>次年度に向けて</b>
<p>1. 「キャリアデザインフォーラム」及び、「中学生による職業体験」の開催 2. 進路選択を補完する方法や情報提供の在り方について協議。</p>	

# 令和7年度 東松山市地域自立支援協議会全体会 「東松山市障害者進路支援連絡会議」

令和8年3月24日

## 進路支援連絡会議の目的と役割



### 情報共有

- 定期的に連絡会を開催し、関係機関同士の連携および情報の共有を図る。

### コンセンサスの形成

- 進路に関し、地域の課題となっていることについて、その解決に向けて議論し、そして提言する。

### コンセンサスの発信・共有

#### 1人ひとりの希望や意見の共有

- 情報発信や地域交流を目指した『キャリアデザインフォーラム』を開催する。
- 働くことや働くために必要なことを知り、将来職業を選択するにあたっての興味や適性を確認すること、東松山地域で「働く体験の場づくり」を促進することを目指した『中学生による職業体験』を開催する。

# 令和7年度の目標

## 1.『キャリアデザインフォーラム』の開催

進路選択の考え方や、進路選択の流れについてなど情報提供を行う。

## 2.『中学生による職業体験』の開催。

実際の企業で働く体験の場を提供する。

東松山地域におけるまちづくりの視点に立った「働く体験の場づくり」を促進する。

## 3.両企画を通し、参加者からの意見や感想をとりまとめ、

今後のフォーラムや職業体験の在り方について、

また、より実効性のある情報提供の在り方について検討する。

### 進路支援連絡会議の成果について

## 連絡会議実施内容

会議等日程	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
定例会議	9日		11日	30日			8日		10日		18日	
議題	・「キャリアデザインフォーラム」について ・今年度の予定について		・「キャリアデザインフォーラム」について ・職業体験について	・「キャリアデザインフォーラム」振り返り ・職業体験について			・職業体験振り返り ・今年度の「キャリアデザインフォーラム」について		・今年度の「キャリアデザインフォーラム」について ・今年度の職業体験について		・今年度の「キャリアデザインフォーラム」について ・今年度の職業体験について	
企画				7月3日 キャリアデザインフォーラム	8月27日 中学生の職業体験							
幹事会		16日		18日		19日		21日		16日		6日
その他	・3日 事務局会議	・30日 特別支援教育コーディネーター連絡会出席		30日 全体会議		12日 事務局会議			24日 事務局会議	27日 医療福祉連携P担当者との意見交換	16日 ひばりが丘特別支援学校担当者との意見交換	24日 全体会議

# 令和7年度キャリアデザインフォーラム 「進路選択に役立つ情報交換会」の開催

## 【目的・趣旨】

年度初めの時期に進路選択に関わる情報提供を行うことで、保護者が進路について考えるきっかけとし、早い時期から情報を得て、各機関のサポートやサービスにより当事者の成長や進路選択を支える仕組みを築くことの重要性を理解する場とする。

【日時】 令和7年7月3日(水) 10時00分～12時00分

【会場】 東松山市市民文化センター大会議室

【対象者】 市内在住、在学の障害のある児童、生徒の保護者。

市内就労、福祉、教育、行政関係者、その他関心のある方

【内容】 ・第1部 講演「進路選択の考え方」

東松山特別支援学校、比企地域基幹相談支援センター、東松山障害者就労支援センター

・第2部 就労支援センター、就労移行支援事業所、就労継続B型事業所、生活介護事業所、ハローワーク、相談支援事業所 のサービス内容の紹介

・第3部 保護者同士の情報交換会

【提供資料等】 ・福祉ガイド ・障害者のための施設一覧 ・各事業所のパンフレット  
・特別支援学校案内 ・中高生による職業体験の案内



# 令和7年度キャリアデザインフォーラム 「進路選択に役立つ情報交換会」の開催

## 【第1部】「進路選択の考え方」について情報提供

『特別支援教育の考え方』

『通常学級、通級指導、特別支援学校の違い』

『学校生活を開始してから卒業までの流れ』

『どのタイミングで進路を選択していくのか』

『どう進路を考えていけば良いのか』

『迷った時はどこに相談すればいいのか』

『福祉サービスや一般就労の進路を選んだ時、

『今できること、準備をしておいたほうが良いこと』など  
情報提供を行った。



# 令和7年度キャリアデザインフォーラム 「進路選択に役立つ情報交換会」の開催

## 【第2部】

市内の就労支援や相談支援等機関による事業内容及び事例紹介

(就労支援センター、就労移行支援事業所、自立訓練事業所、就労継続B型事業所、生活介護事業所、ハローワーク、相談支援事業所)

事業ごとにブースを設け

事業概要の詳細説明と意見交換。



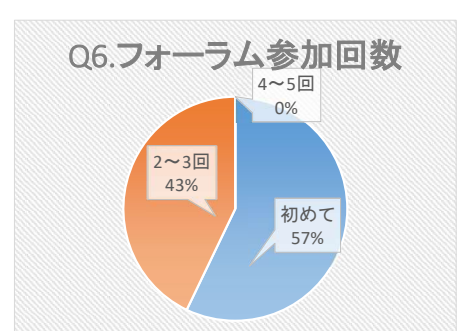
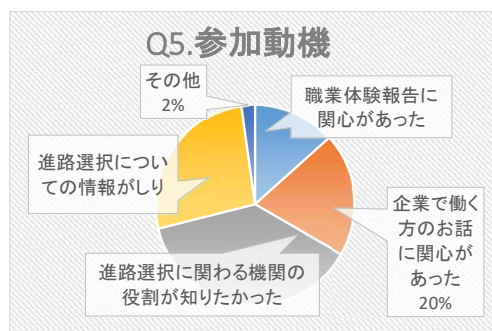
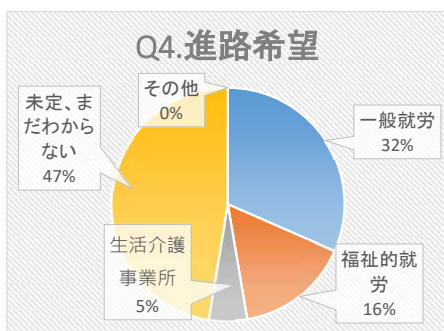
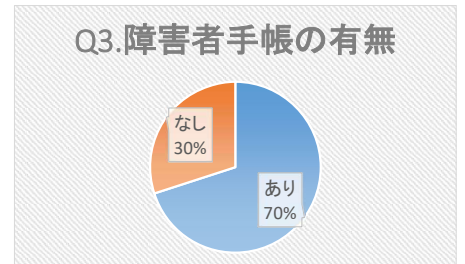
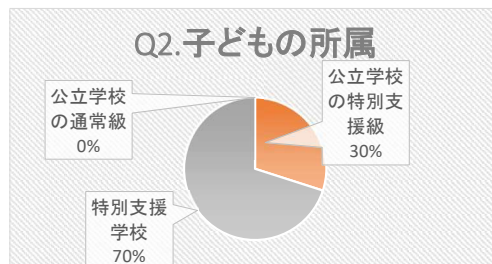
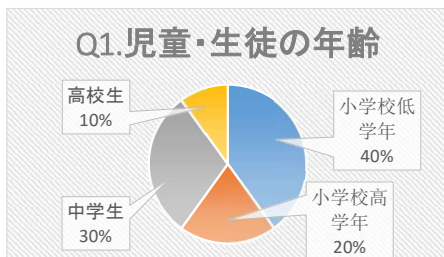
## 【第3部】 保護者同士の情報交換会 (参加者 3名)

# 令和7年度キャリアデザインフォーラム 「進路選択に役立つ情報交換会」アンケートについて

・参加者：16名(1組ご夫婦、もう1組は親子で参加。アンケートは1組1枚)

※アンケート配布数14枚 未提出4枚

※市外からの参加 吉見町1名、滑川町1名



# 令和7年度キャリアデザインフォーラム 「進路選択に役立つ情報交換会」 アンケートについて

## Q8 進路に関わる関心について

- ・手帳を持たない子が、どんなサポートを受けられるのか。
- ・知的に障害のない発達障害がある子供の、高校選び、学校選び。
- ・高校卒業後の進路についての情報が欲しい。など

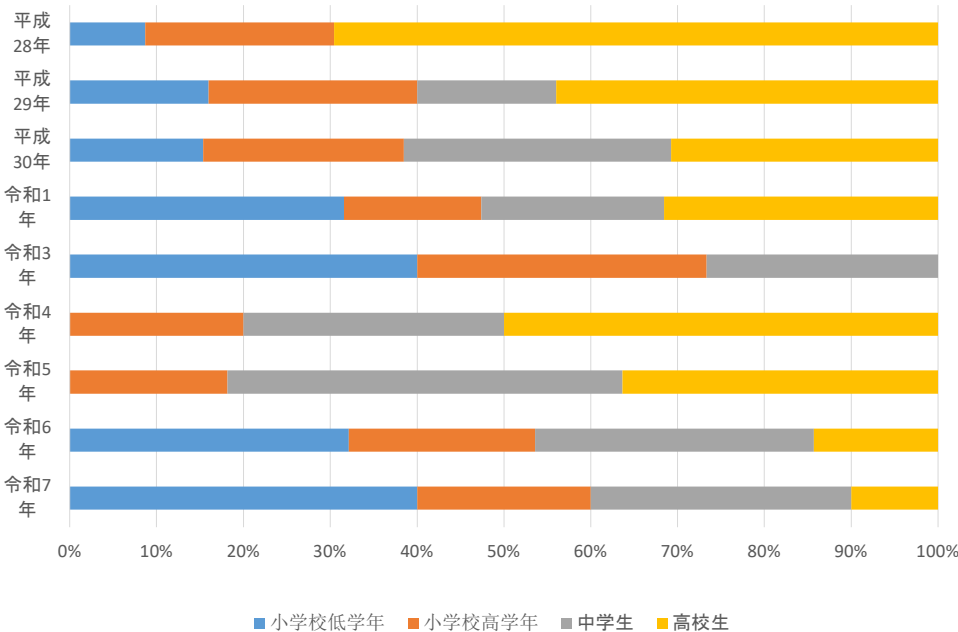
## Q9.感想、ご意見、ご要望

- ・初めて知ることでも沢山あってとても勉強になりました
- ・将来について漠然とした不安があったが、どんな事(サービス等)を利用できるかがわかってよかった
- ・困った時の際の具体的な相談場所をご紹介いただいた。
- ・将来に対する顔つなぎが出来てよかった。
- ・手帳がないグレーゾーンの子に関する情報がほしい。
- ・就職よりも近い将来の進学、今の高校の事情なども知りたかった
- ・福祉サービス利用の際の手続きの方法・必要性がわかった。など



## キャリアデザインフォーラム 参加者の傾向について

参加者の児童、生徒の年齢



参加者数「第1部講演会内容」

28名	「各関係機関の役割紹介」
29名	「中学生職業体験報告と受け入れ企業からのお話」
24名	「中学生職業体験報告と受け入れ企業からのお話」
23名	「企業で働いている重度身体障害のある方のお話」
18名	「障害のある子供を育てた保護者の体験談」
13名	「障害雇用を行う企業の取組」
13名	「障害のある子の進路選択について保護者の経験談」
16名	「進路選択の考え方」

# 令和7年度「中学生による職業体験」の開催

【目的】 参加する中学生が実際の仕事を見たり体験したりすることで、働くことや働く為に必要なことを知り、将来を考える上での情報収集を行うとともに、保護者にも子供の様子を見学していただき、進路選択に必要な情報を得てもらうこと。東松山地域におけるまちづくりの視点に立った「働く体験の場づくり」を促進することを目的とする。

また、体験後の本人・保護者の振り返りから、新たなニーズの掘り起こしを図る。

【日時】 令和7年8月27日(火) 9時00分～13時00分

【会場】 松山市民活動センター 大会議室

【対象者】 市内中学校の特別支援学級を利用している中学生  
 市内在住で特別支援学校等へ通学している中学生、高校1年生  
 ※ 原則として保護者が同伴できる方

【スケジュール】

9時00分 オリエンテーション  
 10時00分 職業体験  
 12時00分 振り返り学習 ～13時00分 終了

【協力企業】

株式会社丸山製作所様、シャローム病院様、株式会社彩松 ケアサービス彩松 ひたまりの郷様、  
 エネックス株式会社様、株式会社ヤオコー東松山新宿町店様



11

## 進路支援連絡会議の成果について

### 令和7年度 中学生による職業体験の様子

丸山製作所 様  
 (軟水器部品の組み立て体験)



・参加者:7名  
 中学1年生～高等部1年生  
 市外2名(ときがわ町、吉見町)

シャローム病院様  
 (病院の仕事見学、総務事務体験)



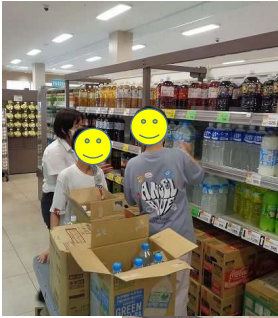
ひたまりの郷様  
 (デイサービスのお掃除体験)

進路支援連絡会議の成果について

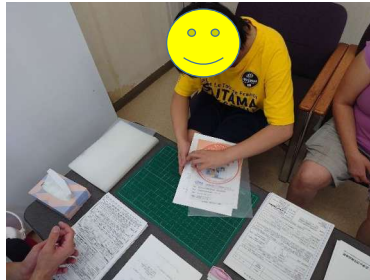
令和7年度 中学生による職業体験の様子

ヤオコー様  
(品出し、陳列体験)

エネックス様  
(パンフレットの帳合、ガス会社の仕事体験)



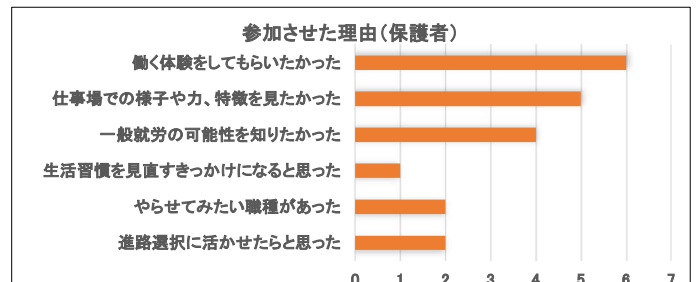
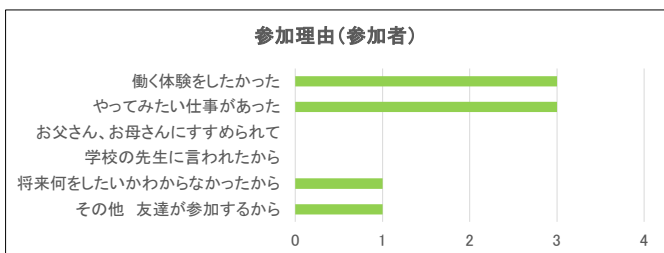
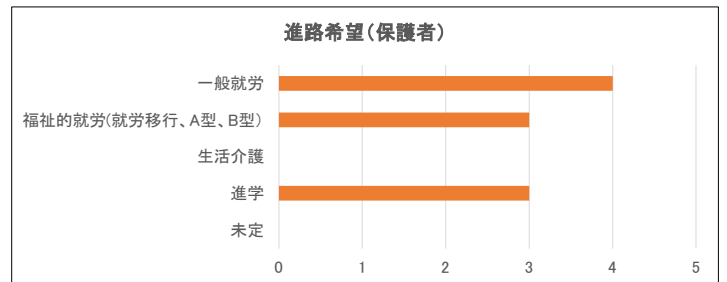
・参加者:7名  
中学1年生～高等部1年生  
市外2名(ときがわ町、吉見町)



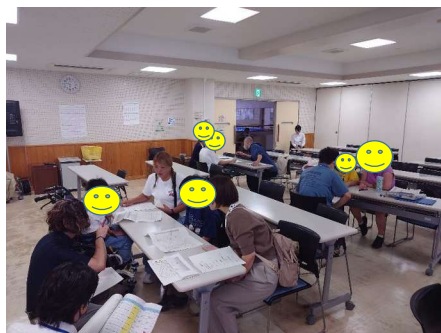
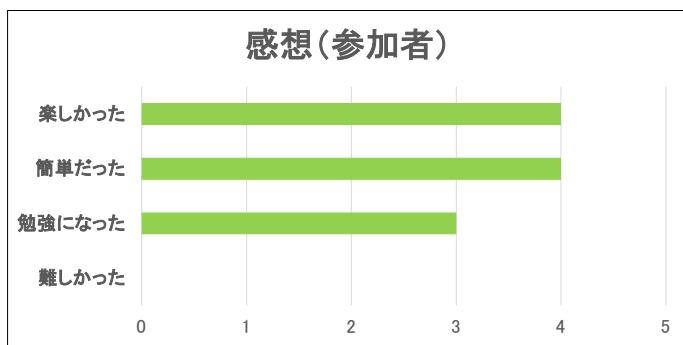
事前学習、事後学習

令和7年度 「中学生による職業体験」アンケート結果について

・参加者:7名 ※定員9名  
【内訳】 特別支援学校 高等部1年 1名(療育B判定)、中学部2年 2名(療育A判定 1名、B判定 1名)、中学部1年 1名(身体2級)  
中学部1年 1名(療育B判定)  
市内中学3年 1名(療育C判定)、市内中学1年 1名(手帳なし)



# 令和7年度「中学生による職業体験」アンケート結果について



## 感想や今後期待することなど(保護者)

- ・いろいろな業種を体験できれば、選択肢が広がり、今後の希望が持てると思った。
- ・肢体不自由の方も参加しやすい企画があればいい。
- ・働く体験の機会が年に何回かあると良かった。
- ・なかなか一人で施設見学などもできないので、みんなで行ける施設見学の企画があるといい。
- ・高等部から考えるのは難しそう。来年も参加したい。もっといろいろな企業のことを知りたい。
- ・将来を考える良い機会になった。進路を考えるきっかけとなった。
- ・もっと長い時間の体験をしたい。
- ・中学の時から、進路ことなど相談できる機会がほしい。

## 進路支援連絡会議の成果について

### これまでの「中学生による職業体験」について

年度	参加者数	協力実施企業
平成28年度	3名	株式会社丸山製作所、株式会社ビーカム、こども動物自然公園
平成29年度	2名	JA東松山いなほてらす、アピタ東松山店
平成30年度	8名	ひだまりの郷、アピタ東松山店、こども動物自然公園、株式会社ビーカム、シャローム病院
令和1年度	3名	ポッシュ株式会社、東松山ホーム、ヤオコー東松山新宿町店
令和2年度		キャリアデザインフォーラムをオンデマンド配信で実施。 中学生による職業体験受け入れ企業(ポッシュ)のインタビュー動画を紹介。
令和3年度	4名(中止)	東松山紙器工業株式会社、野口精機株式会社、株式会社バンテックイースト、東松山市役所
令和4年度	2名	東松山紙器工業株式会社、野口精機株式会社、株式会社バンテックイースト、有限会社松永松盛園、東松山市役所
令和5年度	5名	東松山紙器工業株式会社、株式会社福祉の街デイサービスふくしのまち東松山、伊田テクノス株式会社、株式会社ヤオコー東松山シルビア店
令和6年度	6名	東松山紙器工業株式会社、株式会社福祉の街デイサービスふくしのまち東松山、伊田テクノス株式会社、株式会社ヤオコー東松山シルビア店、高橋精機株式会社
令和7年度	7名	株式会社丸山製作所、シャローム病院、株式会社彩松 ケアサービス彩松 ひだまりの郷、 <b>エネックス株式会社</b> 、株式会社ヤオコー東松山新宿町店

※令和7年度 新規協力企業

## 中学生による職業体験協力企業一覧(体験内容別)

### ●掃除、動物の世話

- ・こども動物自然公園 様  
(ふれあい広場の掃除や、看板製作など)

### ●軽作業

- ・丸山製作所 様(軟水器部品組み立て)
- ・電成興業 様(電設資材ビス止め等)
- ・東松山紙器工業 様(段ボールの加工)
- ・野口精機 様(自動車部品の検査)
- ・ビーカム 様(付録品の解体、分別)
- ・高橋精機 様(部品の検査)
- ・エネックス 様

### ●スーパー、お店

- ・アピタ 様(品出し、陳列等)
- ・いなほてらす 様(袋詰め、品出し等)
- ・ヤオコー 様(品出し、陳列等)
- ・松永松盛園 様(花の管理、販売)

### ●介護施設の仕事

- ・ひだまりの郷 様(介護手伝い)
- ・東松山ホーム 様(デイサービス手伝い)
- ・福祉の街 様(デイサービス手伝い)

### ●事務の仕事

- ・シャローム病院 様(総務事務)
- ・ボッシュ 様(書類のPDF化など事務)
- ・伊田テクノス 様(事務)
- ・東松山市役所(事務)

### ●倉庫の仕事

- ・バンテックイースト 様(自動車部品梱包の準備)

※令和7年度 新規協力企業

17

## 次年度に向けて

### ●令和8年度「キャリアデザインフォーラム」「中学生による職業体験」の開催 ＜キャリアデザインフォーラム＞

進路選択のための情報提供の場として

福祉サービスや一般就労など、進路選択の幅を広げていけるよう情報提供を行う。

令和8年度

「障害のある生徒の働くことについて」をテーマに検討。

広域展開を見据え近隣町村への周知を検討。

＜中学生による職業体験について＞

進路選択の一助となるよう、体験の機会の場を提供。

「働く」を応援できる地域づくりを行う。

令和8年度

障害者雇用を行っていない企業にも参加していただき、

地域の障害者雇用についての理解促進を図る。

### ●その他、進路選択を補完する方法、情報提供の在り方について協議する。

障害のあるこどもの育ちと学びを支える連絡会議	
プロジェクト 設立の経緯	<p>ノーマライゼーションのまちづくりを進める東松山市では、障害のあるこどもが一般の保育園・幼稚園・認定こども園・学校に通園・通学を希望し、選択することが多く見受けられるようになってきた。このような現状の中で、東松山市地域自立支援協議会では、障害のあるこどもの「保育園・幼稚園・学校での生活」を支えるため、関係機関のさらなる連携について議論され、平成 20 年に連絡会議を設置し、関係者のネットワーク構築及び仕組みづくりに取り組むこととなった。</p>
今年度の 目標、成果 及び 次年度の課題	今年度目標
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 巡回相談支援チームの取り組みを南部の小中学校で実施</li> <li>2. エピソード集の作成・配布</li> <li>3. 市内児童発達支援事業所への聞き取り調査を実施</li> <li>4. 地域自立支援協議会が担う児童発達支援センター機能に係る取り組みの推進</li> </ol>
	成果
	<p>○令和 7 年度事業実施状況について スライド資料参照</p>
	次年度に向けて
	<p>○令和 8 年度事業計画について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 巡回相談支援チームの取り組みを北部の小中学校で実施</li> <li>2. 市内児童発達支援事業所への聞き取り調査を分析</li> <li>3. 「ともに育ち合う」を考える研修会の開催</li> <li>4. 地域自立支援協議会が担う児童発達支援センター機能の充実</li> </ol>

# 障害のあるこどもの育ちと学びを支える連絡会議

令和8年3月24日



## 令和7年度 事業報告

1. 巡回相談支援チームの取り組み
2. エピソード集Part3の作成・関係者への配布
3. 市内児童発達支援事業所への調査を実施
4. 地域自立支援協議会が担う児童発達支援センター機能に関わる取組の推進

### 令和7年度 連絡会議活動予定・進捗状況

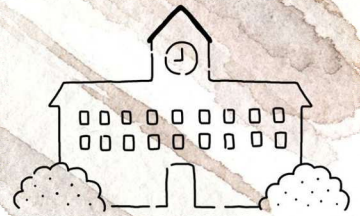
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
自立支援協議会 全体会				○ 7/30							○	
事務局会議		○ 5/16	○ 6/20	○ 7/7	○ 8/26	○ 9/19		○ 11/17	○ 12/3	○ 1/7	○ 2/17	○
連絡会議					○ 8/21						○ 2/27	
チーム巡回関係		特別支援教育コー ディネーター連絡 会議 5/30	← 1回目巡回 →				← 2回目巡回 →					
エピソード集の作成・配布	← エピソード集の作成 →			配布								
児発アンケート聞き取り関係			← アンケート内容 検討 →		← 聞き取り調査 →			← 聞き取り整理・分析 →				
児発センター 機能の充実	医療的ケア児 モニタリング		○ 6/12									
	強度行動障害 の実態・課題 把握											
委員依頼		← →										

## 巡回相談支援チームの取り組み

学校名	1回目	2回目	内容	時間
南中学校	7月3日	10月30日	参観	13:40~14:30
			話し合い	14:40~15:30
桜山小学校	9月11日	1月29日	参観	13:30~14:15
			話し合い	14:30~15:30
新宿小学校	9月25日	12月9日	参観	13:15~14:00
			話し合い	14:30~15:30
高坂小学校	10月2日	1月15日	参観	13:25~14:10
			話し合い	14:45~15:15
白山中学校	10月9日	2月19日	参観	13:35~15:25
			話し合い	15:40~16:40
野本小学校	10月16日	2月12日	参観	13:25~14:10
			話し合い	14:30~15:30
唐子小学校	10月23日 (中止)	12月18日	参観	13:25~13:40、13:40~ 14:25
			話し合い	14:40~15:40
青鳥小学校			参観	
			話し合い	

## 令和7年度 チーム巡回の振り返り

- ・手帳を所持していない、診断も無いグレーゾーンの児童の相談が多い。
- ・不登校・行き渋りのある児童への対応の相談も多い。
- ・家庭全体で支援が必要なケースも多い（ステップファミリー、きょうだい児、DV等）
- ・保育所等訪問支援や療育等支援事業など、学校へ訪問するサービスとの差別化が今後の課題。



## 市内児童発達支援事業所へのアンケート調査

令和6年度に示された「児童発達支援事業所のガイドライン」の「児童発達支援事業所の提供すべき支援」

「本人支援」「移行支援」「家族支援」「地域支援」  
実施状況の確認、課題抽出

※令和5年度の調査では「移行支援」「地域支援」  
取り組みが進んでいない状況を踏まえた状況確認



## アンケート結果

市内7事業所へ依頼 →

回答数7（内、1事業所は回答不可）

- ・ 障害手帳所持：5名      未所持：87名
- ・ 利用登録者：115名  
  内セルフプラン57名（約50%）

## アンケート結果

「移行支援」

こどもが可能な限り、地域の保育・教育等を享受し、  
その中で適切な支援を受けられるようにしていく支援  
→ 保育園や幼稚園への訪問  
情報共有

同年代のこどもをはじめとした地域における仲間づくり  
を図っていく支援

→ 回答無し

# アンケート結果

## 「地域支援」

こどもの育ちや家庭の生活に関わる保健・医療・福祉・教育・労働等の関係機関や障害福祉サービス等事業所との連携によるこどもや家庭の支援

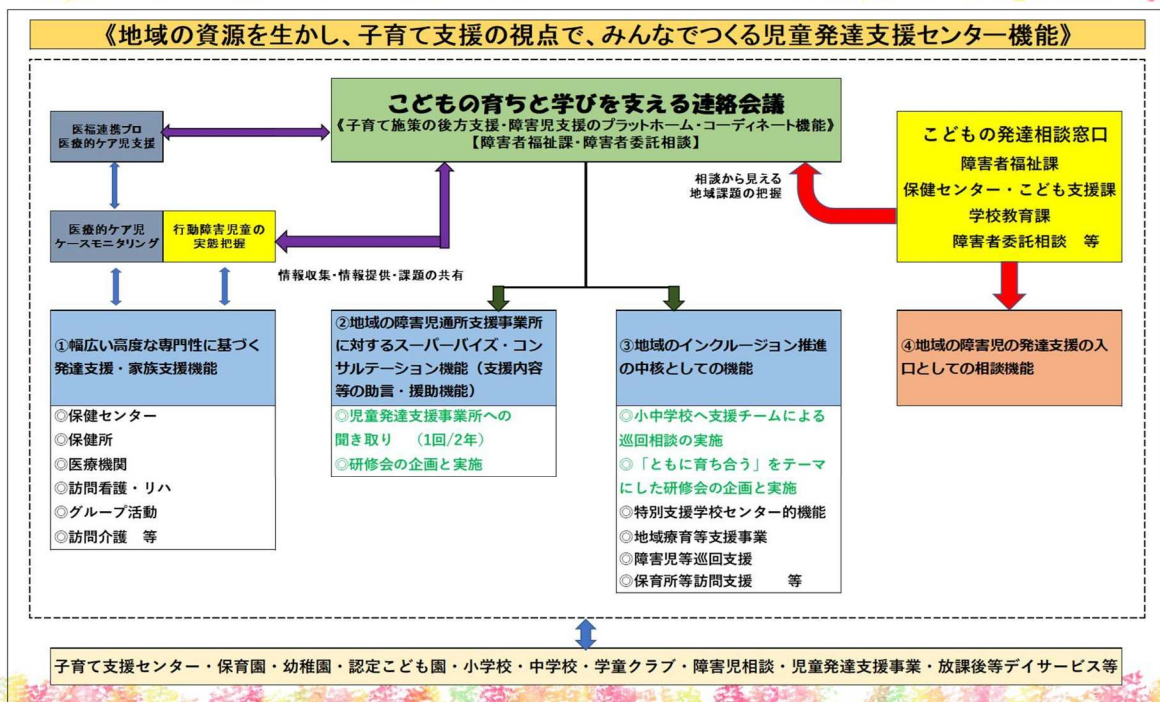
→担当者会議への参加

支援会議の実施

相談員を通じての関係機関との連携

**セルフプランの児童への対応が課題**

## 地域自立支援協議会が担う児童発達支援センター機能に係る取り組みの推進



# こどもの発達相談窓口の設置

令和7年度実績（令和7年4月1日～2月15日）：27件

## ☆対象児年齢

0歳（1名） 1歳（5名） 2歳（1名） 3歳（3名） 4歳（3名） 5歳（4名） 7歳（3名）  
8歳（3名） 9歳（1名） 10歳（1名） 11歳（1名） 12歳（1名）

## ☆初回面談対応 ※重複有

総合教育センター（4件） こども支援課（4件） 健康推進課（10件）  
障害者福祉課（9件）

## ☆つなぎ先・継続フォロー等 ※重複有

調整中（1件） 療育等支援事業（1件） 総合教育センター（6件） 医療機関（3件）  
委託相談（1件） こども支援課（4件） 健康推進課（7件） 障害者福祉課（2件）

# 発達相談窓口の振り返り

## ・相談開始年齢の早期化

0歳・1歳の相談が増加（昨年度0件）→ 6件

発語が無い、少ない

ほかの子と比較して発達が遅い

発達検査を受けたい

療育を受けたい

## ・児童発達支援・放課後等デイサービスの利用相談は減少

## ・学齢期の相談は不登校の相談（3件）

集団生活への相談（4件）



# 令和8年度 事業計画案

1. 巡回相談支援チームの取り組みを北部の小中学校で実施
2. 市内児童発達支援事業所への聞き取り調査を分析
3. 「ともに育ち合う」を考える研修会の開催
4. 地域自立支援協議会が担う児童発達支援センター機能の充実



医療・福祉連携プロジェクト	
プロジェクト 設立の経緯	<p>第1期障害児福祉計画の目標の「医療的ケア児が適切な支援を受けられるよう、保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関等が連携を図るための協議の場」として当プロジェクトを位置づける。また、対象を「医療的ケア児・者」とし、第三次市民福祉プランにおける「医療的ケアが必要な障害のある人が地域において必要な支援を受けるための関係機関との連絡調整を行う体制の整備」を行うためプロジェクトを設立した。</p>
今年度の 目標、成果 及び 次年度の課題	今年度の目標
	<p>I 現状確認リストを活用したモニタリングを行う。</p> <p>II 「受け皿が不足している」という障害福祉サービスの課題に取り組む。</p>
	進捗
	<p>I.現状確認リストを活用したモニタリングについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回モニタリング(児童期) 2025年6月12日(木)</li> <li>・第2回モニタリング(成人期) 2025年11月13日(木)</li> </ul> <p>事務局、訪問看護、保健所、委託相談、基幹相談、医療機関 教育センター、保育課、保健センター、障害のある子どもの育ちと学びを支える 連絡会議、放課後等デイサービス、地域支援センターたいよう、生活介護事 業所 対象：児童期5名、成人期13名</p> <p>家族以外と外出することの難しさが課題として挙げられたケースがあった。医療 的ケアに対応した事業所の選定の課題の他、家族以外の支援の手に本人を ゆだねていくことに対する、家族自身の複雑な気持ちや葛藤があり、福祉サー ビス利用に繋がらないといった状況などが確認された。</p> <p>II.「受け皿が不足している」という障害福祉サービスの課題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所の個別ヒアリングや、生活介護事業所を交えた拡大版の事務局会議 を実施するなどして協議を重ねてきた。以下2点が確認された。</li> <li>① 卒後の進路先としては実習段階から候補に挙がらないと、通所にはつな がらないこと</li> <li>② それを実現するためには進路支援連絡会等、横断的に取り組む必要があ ること</li> <li>①の実現のために事務局と進路支援連絡会木村リーダーと、川島ひばり特別 支援学校で先生を交えて協議を行った。②の実現のために次年度からの取り 組みを協議、整理している。</li> </ul> <p>次年度以降の取り組み予定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケースモニタリング</li> <li>・リーフレットの作成</li> <li>・幼・保、卒後進路の拡充 等</li> </ul>

# 医療・福祉連携プロジェクト

東松山市地域自立支援協議会 全体会

2026年3月24日(火)

於東松山総合会館

## 報告内容

- 医療・福祉連携プロジェクトについて  
⇒これまでの取り組みと課題の整理
- 今年度の取り組みについて  
⇒令和7年度取り組みの評価
- 次年度に向けて  
⇒令和8年度とそれ以降の取り組み



## 発足の経緯

各都道府県、圏域及び市町村において 令和5年度末まで

- ①保健・医療・障害福祉・保育・教育等の関係機関が連携を図るための協議の場を設ける
- ②医療的ケア児等に関するコーディネーターを配置する。



## 当プロジェクトが取り扱う領域



医療的ケア児が適切な支援を受けられるよう、保健・医療・障害福祉・保育・教育等の関係機関が連携を図るための協議の場の設置

## プロジェクトの成果

- 協議の場の設置(モニタリング)
- コーディネーターの配置
- 研修開催(喀痰吸引・災害対策)
- 退院支援
- 支援スキームの可視化



## これからの課題

- ・複雑に絡み合う機関の連携強化と制度への対応
- ・足りない資源の確保
- ・リーフレットの作成
- ・親の離職の防止に資する取組
- ・緊急時、災害時の対応



## 連絡会議としての取組

- ★モニタリング【協議の場】
- 受け皿(受入事業所)確保
- その他、医ケア児者を取巻く環境の改善に資する取組



## 医療的ケア児者を支えるネットワーク会議(通称 医ケアNET)



### 【目的】

医療的ケア児・者、家族及び支援機関等が、生活する上で多様な選択肢を持ち、適切に連携して生活しやすいまちづくりに取り組む。

- 【本人支援: 選択肢の拡充】
- 【家族支援: 離職防止、疲弊抑止】
- ・選択肢の増加 等
- ・介護疲労の軽減、離職防止 等

## 具体的な取組



＜令和8年度～＞  
 モニタリング【2/年(回)】  
 リーフレット作成  
 幼・保、卒後進路の拡充 等



# 医療・福祉連携PJ 令和7年度取組イメージ図

## 医療・福祉 連携PJ

### ケースモニタリング

※個別ケースモニタリングを通じた対象者の現状確認と不足している資源や課題の抽出を行う。

### 医ケア等事業所 ミーティング

※「受け皿が不足している」という障害福祉サービスの課題に段階的に取り組む。

関係機関のテーマ別会議や研修を企画、実施する。

# ケースモニタリング 参加機関



## 医ケア等事業所ミーティング 参加機関

生活介護  
事業所

事務局

医ケア児等  
コーディネーター

# 今年度の評価

- ケースモニタリングについては、継続的に実施することで個別ケースを協議会でフォローしていく場となっている。
- 受け皿が不足しているという課題については、取り組みが効果的に働いているとは言えない面があった。
- 進路支援連絡会議や教育機関と協議の場を持ち、改めて課題と取り組みについて確認した。

## 令和8年度の取り組み

I. 医療的ケア児者を支えるネットワーク会議  
(通称 医ケアNET)に移行する。

⇒ ケースモニタリングの継続

⇒ 受入事業所を広げる取り組みの継続

(進路支援連絡会議メンバー等のケースモニタリングへの参加)

II. その他、医ケア児者を取巻く環境の改善に資する  
取り組み

⇒ リーフレットの作成

# 今後の取り組み（令和8年度以降）

- 受入事業所の拡充について

- ① 個別事例の積み上げの継続

例：ケースモニタリングを通じてフォロー

- ② 連絡会議横断的な取組

例：

進路支援連絡会議メンバー等を交えた  
川島ひばりが丘特別支援学校との協議の継続

地域生活支援拠点等連絡会議	
プロジェクト 設立の経緯	<p>地域生活支援拠点等とは、障害者の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据え、居住支援のための機能(①相談②体験の機会と場③緊急時の受入れ・対応④専門的人材の養成と確保⑤地域の体制づくり)を地域の実情に応じた創意工夫により整備し、障害者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制を構築するもので令和3年5月に事業開始となった。「東松山市地域生活支援拠点等連絡会議」を設置し、拠点事業の運営や課題について協議している。</p>
今年度の 目標、成果 及び 次年度の課題	今年度の目標
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設入所者の地域移行に係る追調査の実施</li> <li>・障害福祉サービスにつながらない人の実態調査について</li> <li>・地域生活支援拠点コーディネーターの配置について</li> <li>・事業の評価方法についての見直し</li> </ul>
	進捗
	<p>○令和7年度地域生活支援拠点等連絡会議 7/28(月)、11/10(月)、令和8年3/2(月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域生活拠点等利用者リストの進捗 拠点登録相談支援事業所を中心に、対象者名簿を随時見直し、真に必要とする支援を整理しながら緊急時支援のマッチングを進めている。(登録者:ショートステイ28名、行動障害16名)※前年度(22名・11名)対比11名増加</li> <li>・地域生活支援拠点コーディネーターの配置について 地域の体制づくりを促進するため、拠点コーディネーターを令和7年10月から配置した。</li> <li>・施設入所者の地域移行に係る追調査の実施 R5年度に実施した全施設入所者72名に対する地域移行に係る聞き取り調査結果を精査し、地域移行に係る聞き取り調査を3名実施した。 いずれの対象者も地域移行の可能性はあるが、生育歴や家族状況を踏まえて引き続き慎重に検討する必要があると判断した。</li> <li>・サービスにつながらない人の実態調査(アウトリーチ) 療育A以上、40歳以上でサービスを利用していない6名について、委託相談支援事業所と行政で実態調査を行い、必要な支援につないだ。</li> <li>・R7年度事業評価について(ユーザー評価を追加) 別添資料参照。</li> <li>・R8年度取り組みの方向性と概要について 別添資料参照。</li> <li>・次年度のスケジュールについて 連絡会議 R8.7/24、11/27、R9.2/26</li> </ul>

# 令和7年度東松山市地域生活支援 拠点等事業の運営状況の評価 (令和8年3月24日全体会)

## 地域生活支援拠点等連絡会議

### 地域生活支援拠点等の概要

障害者及び障害児（以下「障害児者」という。）の重度化・高齢化及び「親亡き後」に備え、居住支援のための5つの機能（相談、緊急時の受け入れ・対応、体験の機会、専門的人材の確保・養成、地域の体制づくり）を地域における複数の機関が分担して担うことにより、障害児者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制を構築する。

### 地域生活支援拠点等が担うべき機能

- ①居宅で生活する障害者等の、(中略)緊急の事態における対処や緊急の事態に備えるための相談に応じること、支援体制の確保のための連携や調整。緊急時における宿泊場所の一時的な提供等の受け入れ体制の確保。
- ②入所施設や病院、親元からの地域移行に向けた、ひとり暮らしやGH等の体験利用の機会の提供や、そのための相談や情報提供、関係機関との連携・調整等。
- ③障害者の地域生活を支える専門的人材の確保・育成等

# 地域生活支援拠点等の機能に関する評価項目

- ① 【要支援者の事前把握及び体制】
- ② 【相談機能】
- ③ 【緊急時の受け入れ・対応】
- ④ 【体験の機会・場の確保】
- ⑤ 【専門的人材の確保・養成】
- ⑥ 【地域の体制づくり】

## ① 【要支援者の事前把握及び体制】

緊急対応など支援が必要となる障害者・障害児（強度行動障害のある人や医療的ケアが必要な重症心身障害者、潜在的な要支援者等）の事前把握・登録・名簿管理、関係機関との情報共有



**【評価】 一定程度できている**

(十分できている／一定程度できている／全くできていない)

### 現状・課題に関する自己評価

1. 拠点登録相談支援事業所を中心に、対象者名簿を随時見直し、真に必要な支援を整理しながら緊急時支援のマッチングを進めている。（登録者：ショートステイ28名、行動障害16名）  
※重複2名、前年度（22名・11名）対比11名増加
2. 強度行動障害がある人の状況・ニーズの把握について、行動援護連絡会に参加し、支援者の課題意識等の聴き取りや意見交換を行った。

### 現状・課題に関するユーザー評価

- ・拠点未登録事業所が抱えるケースや委託相談支援事業所が関わるケース等も含め、未把握の対象者がまだいると思われるので、「一定程度」の評価。

## ② 【相談機能】

把握した緊急対応など支援が必要な障害者・障害児からの緊急時を含む相談体制の確保



### 【評価】 一定程度できている

(十分できている／一定程度できている／全くできていない)

#### 現状・課題に関する自己評価

1. 令和8年2月時点で「相談」機能を担う事業所は、今年度新たに1事業所増加し、7事業所が登録している。
2. 拠点登録相談支援事業所を中心に、対象者名簿を随時見直すとともに整理、緊急時支援のマッチングを進めている。マッチング率：ショートステイ42%（12/28）
3. ※前年度55%（12/22）対比13%減（R8. 2月から登録事業所7名新規）
4. 療育A以上、40歳以上でサービスを利用していない人6名について、委託相談支援事業所と行政で実態調査を行った。（2名継続的支援・2名継続見守り・1名拒否・1名実態なし）

#### 現状・課題に関するユーザー評価

- ・自己評価4の項目は評価に値する。
- ・緊急時に限らず平時からの相談のしやすさが重要。セルフプラン利用者の情報格差は課題と思われるので、セルフプランの解消にも取り組む必要がある。

## ③ 【緊急時の受け入れ・対応】

把握した緊急対応など支援が必要な障害者・障害児からの緊急時の受け入れ先の確保



### 【評価】 十分できている

(十分できている／一定程度できている／全くできていない)

#### 現状・課題に関する自己評価

1. 令和8年2月時点で「緊急時の受け入れ・対応」機能を担う事業所は、今年度新たに1事業所増加し、12事業所が登録している。
2. 令和7年度、緊急時ショートステイ対応1件の実績あり。
3. 地域定着支援では実利用者16名、うち2名4件の緊急対応実績があった。

#### 現状・課題に関するユーザー評価

- ・受け入れ側の事業所の体制はまだまだ整っていないと感じている。受入実績がないので、今後、実際に受け入れてみて課題がわかるようになると良い。
- ・未登録事業所からすると、どこにどれだけ資源があるかわからない。引き続き事業所の拡大は必要。
- ・緊急時ショートステイ対応の実績1件は、平時からの取り組みが奏功したと評価すべきか迷うところがある。
- ・通所系事業所に助けられる場面も多い。相談支援事業所ともしっかり連携を深めていけたらよいと思う。

## ④ 【体験の機会・場の確保】

把握した地域生活への移行や継続の二ーズを踏まえた地域生活の体験宿泊等の実施



【評価】 一定程度できている

(十分できている／一定程度できている／全くできていない)

### 現状・課題に関する自己評価

1. 令和8月2月時点で「体験の機会・場」機能を担う事業所は、6事業所が登録を行っており、増減はない。
2. 地域移行支援事業の実利用者数（R8.1月末時点）は3名で、全員精神科病院からの退院者であった。
3. R5年度に実施した全施設入所者72名に対する地域移行に係る聞き取り調査結果を精査し、地域移行に係る聞き取り追調査を3名実施した。

### 現状・課題に関するユーザー評価

- ・自己評価3の項目は評価に値する。
- ・入所施設での意向確認について難しさを感じている。今後、一緒に考えてもらいたい。
- ・児童期からショートステイを利用するなどの体験も大切だと考える。

## ⑤ 【専門的人材の確保・養成】

専門性の確保に向けた取組の実施



【評価】 一定程度できている

(十分できている／一定程度できている／全くできていない)

### 現状・課題に関する自己評価

1. 比企地域自立支援協議会「障害福祉サービス事業所連絡会」で入所施設からの地域移行や緊急時対応についてをテーマにした研修を実施した。
2. 基幹相談支援センター事業において、相談支援事業所を対象とした研修を実施した。
3. 医療的ケアが必要な人の支援については、「医療・福祉連携プロジェクト」で家族背景も含めた支援の在り方等、関係機関で協議している。
4. 行動援護連絡会に参加し、支援の実態と今後の人材育成等について意見交換を実施した。

### 現状・課題に関するユーザー評価

- ・入所施設からの地域移行については、障害福祉サービス事業所連絡会の取り組みも活かしてどのような人材や環境が必要なのか具体的に検討できると良いと思う。
- ・障害児の対応についても専門性の中に入るのではないか。

## ⑥ 【地域の体制づくり】

把握した障害者・障害児の地域生活のニーズを踏まえた地域の体制づくりの実施



### 【評価】 一定程度できている

(十分できている／一定程度できている／全くできていない)

#### 現状・課題に関する自己評価

1. 令和8月2月時点で「地域の体制づくり」機能を担う事業所として、今年度新たに1事業所が増加し、6事業所が登録している。
2. 地域の体制づくりを促進するため、拠点コーディネーターを令和7年10月から配置した。
3. 拠点コーディネーターの役割や今後の進め方について、行政、基幹相談支援センター、拠点コーディネーターで定期的な協議を開始した。

#### 現状・課題に関するユーザー評価

- ・施設入所から地域生活へ移行することに難しさがある。コーディネーターにはそういった部分で一緒に考えてほしい。拠点事業が推進力になると良い。
- ・障害児も事業の対象に含まれる。障害児の短期入所は受け入れ先もほとんどなく、事例も少ない点から、課題と思われる。

## 東松山市地域生活支援拠点等事業 令和8年度に向けて

1. 地域生活支援拠点等登録事業所を増やし、拠点コーディネーターを中心に既存の関係機関のほか、医療機関や障害福祉サービス事業所も含めた連携体制を強化する。
2. 要支援者リストに記載された利用者と受入事業所のマッチングを進める。
3. 要支援者の事前把握は対象を広げ、①療育A以上・福祉サービス利用無・40歳以上の者1名と、②療育B以下・過去2年間福祉サービス利用無・25～55歳の者5名の計6名について訪問等により状況や支援ニーズの把握を行う。
4. 施設入所者の地域移行について、各入所施設の地域移行意向確認担当者と今後の連携について協議する。

# 東松山市地域生活支援拠点等事業 令和8年度に向けて

5. 親元からの自立に向けた支援のモデルケースとして、一人暮らしへの移行に取り組む。
6. 当市の地域生活支援拠点等で必要な「専門的な人材」を明確化する。
7. 緊急時の支援として、通所系サービス事業所を訪問して現状やニーズを把握する。
8. 7と併せて、相談支援事業所に働きかけ、通所先との連携体制の構築を進める。

## ■ R7 地域生活支援拠点等事業に係る実態調査からの事例①

要件：療育A以上・40歳以上でサービスにつながない人

対象者	Xさん・40代前半・女性・療育A
家族構成	母（70代前半）・妹（40代前半・療育B）・弟（40代前半・療育B）の4人世帯
事前記録	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R3.4月 療育手帳取得の希望有り市が支援し取得。弟（療育B）も留守番が出来ず各種手続き等に同席するもじっとしてられない。</li> <li>・R3.10月 障害年金請求に係る支援を市が行い受給に至る。</li> <li>・R6.10月 妹も手帳取得の希望有り、市が支援し療育手帳取得に至る（療育B）。近隣住民の理解と支援を受けながらなんとか生活を維持している様子。ただし、支援者も高齢となり地域で支える力は低下している印象。</li> </ul> <p>※訪問すると全員が一斉にバラバラのことを話し出すので、3人以上で対応が必要と思われる</p>

### <実態調査>

実施日時	令和7年4月17日（木）午前10時～11時30分
調査員	<p>&lt;市&gt; 新井保健師・伊藤保健師</p> <p>&lt;委託相談&gt; 阿久津相談員（総合福祉エリア） 南澤相談員（西部・比企地域支援センター）</p>
受入れ状況	良好（妹から総合福祉エリアへ困りごとの発信があった機会を捉えて訪問）

### <調査結果>

生活実態	母も今のところしっかりしており、妹を中心に世帯が維持されている。掃除や家事は妹中心。弟はにぎやかで家族の中で愛されている様子。Xさんは話には加わらず、少し離れた場所で聞いている状況。収入は年金収入のみか（母・対象者・妹）。田畑等の土地を所有。地域の民生委員ともつながりがある様子で、地域での見守りや支援があつて生活を維持しているが、高齢化に伴い地域の支援力も低下傾向か。
困りごと （妹発信）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Xさんが年1回医大で婦人科の検診を受ける必要があるが、その支援が大変⇒生活サポートの申請書類を後日渡す。家族以外の支援が入ると良い。</li> <li>・弟が慢性腎臓病で3月に1回医大へ通院が必要だが、その支援が大変⇒同上。</li> <li>・土地の買取の話で、国か市か、職員が来たが手続きが分からない。</li> </ul> <p>⇒河川改修に伴う行政からの案内があつたようで、通知文書に詳しく説明をしたような跡があり、正規のもの様子。</p>
発信力	妹のみ有り。
今後の見立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活サポートの利用につなげる支援は行うこととなったが、すぐに委託でなにか支援が必要なケースではない。ただし、手続き関係は支援が必要と思われる。</li> <li>・妹又は母になにかあつたときがクライシスと見立てる。その場合、Xさんが最も支援困難な見立て（やや自閉傾向ありか？）。</li> </ul>

	・常時の見守り体制はこのままでよいか（妹から発信があったときに対応）
拠点登録の要否	現状の拠点登録の仕組み（登録相談支援事業所が対象者を挙げる）に当てはめると、「否」の扱いとなる。ただし、サービスにつながっておらず、将来的にクライシスが想定され、しかも世帯全体の支援を要する重層的支援が見込まれる世帯であり、「一時的な緊急事態に対する受け入れ」にとどまらず、本来の拠点等事業の趣旨からすると必要性があると言える。委託相談連絡会で試行的にまとめたリストでの要支援者の扱いに照らし合わせるならば、受け入れが良好という点では「否」の扱いともいえる。要検討。

【その後】

実施日時	令和7年7月13日（日）
調査員	<委託相談> 阿久津相談員（総合福祉エリア）
記録	<p>その後の様子確認のため訪問。相変わらず世帯全員元気に過ごしている。心配事として金銭管理の話題が出る。</p> <p>①亡くなった父の遺産を、相続権のない親戚から「お金ちょうだい」と言われ、わたししてしまった。</p> <p>②本人いとこの母から「娘が病気になったからお金を貸して」と言われ貸したが、返してくれない。</p> <p>⇒母の人の好きから金銭を渡してしまっている様子のため、今後は貸す前にエリアに相談するよう伝えた。母がいなくなった後はだれが世帯の金銭を管理するのか課題。</p> <p>また、大雨警報が出る前日の訪問だったこともあり、「災害時、どうやって避難したらよいか」とのこと。避難先は〇〇小学校となっているが、車もなく避難する手段がない。ハザードマップ上は危険区域にぎりぎり入っていない。社会福祉課からは毎年手紙が届いているとのことから、避難行動要支援者個別支援計画の策定状況を社会福祉課に確認することとする。</p> <p>⇒社会福祉課に確認した結果、Xさんと弟の2名が登録し、個別支援計画は策定していない。社会福祉課が訪問対応するとのこと、初回面談のみ、阿久津相談員に同席を依頼。9月5日に訪問予定。</p>
実施日時	令和7年9月5日（金）
	<委託相談> 阿久津相談員（総合福祉エリア）・社会福祉課職員
記録	<p>避難行動要支援者避難支援制度について説明し、母と妹についても登録の運びとなった。また、雨が降ると防災行政無線が聞こえないとのこと、防災行政無線戸別受信機を貸与することとし、9月末に再度訪問する予定。</p> <p>また、受信機により情報は得られるようになったとしても、避難する判断については難しいと見立てることから、自治会長等を通じて、避難時に当該世帯へ声をかけてもらえるよう、地域内で調整を図ることとする。本人たちは「〇〇小学校は遠い」というものの、それより近くに避難場所もなく、身体的には移動は可能なため、〇〇小学校が避難所となる。ただし、大勢の中ではXさん・弟がいられない・落ち着かない特性があるため、可能であれば教室棟の一室をあてがえないか検討すること。</p>

	令和7年9月18日(木) 社会福祉課職員から情報提供
記録	自治会長に本世帯について相談をしたところ、一度訪問してみるとのこと。本人たちから、〇〇小学校までは行けないが、自治会館までなら行けるという話も出ていたことを伝えると、「自治会館の鍵は自治会役員で管理しているので、必要があれば開場できる」とのこと。訪問した結果は社会福祉課へ報告いただけることとなった。
	令和8年3月2日時点 社会福祉課へ確認
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉課から自治会長へ確認を2度ほどしたが、まだ訪問できていないとのこと。</li> <li>・防災行政無線戸別受信機を貸出し自宅に設置したが、Xさんが「見慣れない機械が家にあるのが怖い」と訴え有。見えない位置に設置すること等も提案したが、希望により設置の翌日撤去することとなった。</li> </ul>
その他	<p>&lt;委託相談&gt; 阿久津相談員(総合福祉エリア)3か月に1回ほど架電し、近況を確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母からエリアへ架電あり、河川改修に係る手続きに係る交通手段の相談</li> </ul> <p>→困りごとを発信できる・相談先として認識されてきた</p>

令和8年度 東松山市地域自立支援協議会スケジュール（案）

	名称	計画目標に対する役割	幹事事務局	会場	日時	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
市	全体会	進捗管理、報告・助言・承認	東松山市	総合会館	年2回				調整中								調整中
市	事務局会議	協議会運営	東松山市	相談支援事業所 連絡会議と同じ	第4火曜 9:00～ 9:30	4月28日 (火)		6月30日 (火)		調整中		10月27日 (火)		12月22日 (火)		2月16日 (火)	
市	幹事会	進捗管理、報告・助言・承認	東松山市	総合会館	第3金曜 1430～		5月15日		7月17日		9月18日		11月20日		1月15日		3月6日
							302会議室		301会議室		302会議室		302会議室		302会議室		302会議室